

いのちいっぱい 感動いっぱい ~ ありがとうの旅を続けよう! ~

明日から今年度最後の月を迎えます。授業日も、残り16日(6年生は15日)となりました。みんなで、いのちいっぱい、感動いっぱい、ありがとうの旅を有終の美で飾れるよう、がんばりたいと思います。

継続が意味するもの

1月中旬から始まった中休みの全校10分間走は、校内持久走大会へ向けた体力づくりと「チームきすき」として一つのことをみんなでやり遂げる精神力を養うためのものでした。雪の日もあり、雨の日もありましたが、ほとんど計画通り実施することができ、1か月近くの練習が、当日の大きな力となったことは違いありません。

実は、本校では、10月中旬以降「きすきトライアル」を体力推進計画に取り入れています。今年度が2回目の実施でした。1学期は水泳。夏休みから2学期中盤にかけては陸上。

しかし、それ以降は、「走る」ことに関して、運動量はガクッと下がります。この運動量の激減を防ぎ、持久力をキープする運動が、体育の時間に行う「きすきトライアル」です。中学年以下は先生がリードしますが、中学年以上は子どもたち自身が、自分の走力に合わせて速さを決め、グルーピングを行い、リーダーがストップウォッチを持って設定時間通りに走ります。長い時間ではありませんが、この繰り返しが少しずつ体力をつくり、持久力を養います。しかも、運動量が減る冬季に行うこの運動は、心身の大きな変化をもたらせます。

2月に行われた校内持久走大会では、子どもたち一人一人の大きな体力向上を見ることができました。ほぼ全員が、自己ベストタイム更新。そして、力強い走りとした表情。この3年間で今年度ほど、保護者の方から、「子どもたち、すごい!」と言われた年はありません。地域の方の“応援横断幕”効果もあり、そして、何よりもご家族の大声援もあり、喜須来っ子たちのがんばる姿を見ていただくことができました。子どもたちは、生きる力を秘めています。私たちは、その力を引き出し続けたいと思います。

まごころの精神

来年度の喜須来小学校を引っ張る児童会役員を決める選挙が、先日、全校児童参加の下、体育館で行われました。児童会長候補は、5年生の水沼くん、河野くん、浦田さん、山口さんの4人だったのですが、投票前に4人の立会演説が行われ、それぞれがしっかりとした公約を掲げ、みごとな発表をしてくれました。もちろん、練習やリハーサルをしていたと思いますが、4人の声の張り、堂々とした表情、熱い思いに、私は感動しました。「小学生でここまでできるんだ。」そう感じたのです。

立会演説が終わると、全校児童からの質問タイムがありました。6年生が中心に質問しましたが、その中の一人、稲見くんは、こんな質問をしました。

「今の児童会長、井関くんは、弱い立場の人にも優しい気持ちで接していました。休み時間なども、いつも自分から弱い立場の人に対して声を掛けていました。みなさんは、今までに、弱い立場の人に対して、どんな接し方をしてきましたか。」

この意表を突いた質問に、4人の候補者の表情がガラッと変わりました。4人の回答は、ほとんど同じ内容だったのですが、「今は十分できていないけれど、そういうことができる人を目指したい。」と正直に答えてくれました。候補者全員が、その質問を真摯に受け止め、今できていない自分を変えなければならぬと答えてくれたのです。稲見くんの質問の意図は何だったのでしょうか。それは、彼自身が、この6年間で、弱者への接し方について大切なことを学び、経験し、考えてきたからではないかと思います。

話は変わりますが、先日の保内ブロック子ども育成会において、本校PTA会長の上田さんが、喜須来小の子どもたちの縦のつながりについて発言されました。

「喜須来小の自慢をさせてください。喜須来小は、高学年生の低学年生に対する接し方が本当に素晴らしいんです。今年度に始まったことではなく、伝統として子どもたち同士の縦のつながりができているようで、いい学校だなあいつも思うんです。こういうことが、今の時代も大切だと思うんです。」

上田会長さんが言われた年上の者が年下の者を大切にすることは、学校生活の中で人が人を思ったり、

支えたり、寄り添ったりする行動に直接つながります。立会演説で、稲見くんが問いかけたことも、このお話と共通するものだと私は思ったのです。

さて、立会演説会の最後に、6年生の久保さんがこんなことを言いました。



「質問ではないんですが、4人の候補者全員が、しっかりとした考えや意見を持ち、一生懸命答えてくれました。私は、だれが児童会長になっても大丈夫だと思います。すばらしい発表だったと思います。」

候補者たちは、どんなに嬉しかったことでしょう。まごころの教育を貫く本校教育の真髓が子どもたちの中に、今もこうして生き続けている

ることを心から嬉しく思います。

ふるさとの風景

昨年10月のある日、突然舞い込んできたある方から本校へのご寄付のお話。あまりにも突然のお話で、正直驚きを隠すことができませんでしたし、最初は半信半疑の思いもありました、お話を進めていくうちに、ふるさとや本校への熱い思いを抱かれています方だと分かり、感謝の思いでお話を進めさせていただきました。

ご寄付をいただいたのは、昭和24年度に本校を卒業された瀬本（旧姓 河野）幸重さん。当時は、磯岡分区の喜木橋の石屋さんのお隣にご自宅があったそうです。現在は、岡山県倉敷市にご在住で、株式会社中本屋工務店の取締役をされています。ふるさとを離れ、生活も厳しく、かなりご苦労をされたようですが、今や岡山県では知らない人がいないほどの大企業経営。このご寄付は、伊予銀行のふるさと応募私債「学び舎」制度を活用されたものだそうで、贈呈式当日は、伊予銀行倉敷支店の山本支店長さんもわざわざ来ていただき、子どもたちが用意していた「ありがとう集会」に同席していただきました。瀬本さんと伊予銀行さんのご厚意によりご寄贈いただいた品は、簡易テント1張、長机4脚、ワイヤレスアンプです。どれも本校が今一番購入したかった備品で、こんなにうれしい贈り物はありません。5月の運動会には、さっそく使わせていただこうと思っています。

さて、今回の瀬本さんの来校に併せて、瀬本さんの恩師である丸山徹子先生と丸山先生のお知り合いになる小野巖さんにもお越しいただき、集会と一緒に参加していただきました。集会を待つ間、校長室でいろいろなお話を伺ったのですが、丸山先生曰く、瀬本さんは、小学校の頃はどうやらやんちゃな少年だったようです。休み時間になると天王山へ駆け上がり、走り回っていたそうです。そんな瀬本さんを丸山先生は、「ゆきしげー、授業が始まるよー！」と、天王山に向かって叫ぶのだそうです。すると、幸重さんは教室に上がる丸山先生よりも必ず先に教室へ駆け戻り、先生が入るときには、きとんと座って先生を迎えていたとか。やんちゃだったけれど、教室が好きで、仲間が好きで、そして、何よりも先生を尊敬していた瀬本さん。物静かで多くは語られませんが、喜須来小学校の6年間で、今の瀬本さんの礎になっていることは違いないようです。集会が終わりお見送りする際、車の後部座席に、たくさんのお米が積んであるのが目に入りました。瀬本さんは一袋を手にするので、「校長先生、これは、私の田んぼで作った米です。食べてみてください。」と言われ手渡されました。「工務店の方なのに、どうして米？」と思ったのですが、「ここはあまり変わっていないからいい。」と周辺の風景を見渡されながらつぶやかれる瀬本さんを見て、「ふるさとの風景」が、今もなお瀬本さんの心を動かしているのだと感じたのです。



みなさんをお見送りし、校長室へ戻った私は、先ほどいただいた瀬本さんの名刺にあらためて目をやり、ハッとしました。そこには、人として忘れてはいけないこんな言葉が書かれてあったのです。

「まじめ一本」